（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

最終更新日	２０１７年（平成２９年）　２月２０日

２０１６　年度（平成　２８　年度）学校評価自己評価表（案）

済美中学校区	校番　１８	福山市立　瀬戸小　学校

Ⅰ　福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

Ⅱ　前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

次の２点である。
○かかわり合いを大切にしながら，子ども同士がつながる教育活動の推進
○地域へのボランティア活動などを通して，自己肯定感を高め，地域貢献できる人材の育成

Ⅲ　中学校区

１　めざす子ども像

≪中学校卒業時，生徒につけたい力のイメージ≫
○自ら学ぶことによって，生き方を判断するための「基礎学力」を身につける
○かかわり合いながら「人格の発達や豊かな人間性」を身につける
○目標に向って努力し，「チャレンジ」する

２　研究主題及び主な研究内容

主体的な学びを育成するための指導の在り方
～言語活動の充実と生徒指導三機能を生かす指導方法の工夫～

３　現状（成果及び課題）

（１）児童生徒

≪成果≫
○「基礎・基本」定着状況調査については小中ともおおむね理解できている。
○無言清掃の取組を通して，児童生徒の意識が高まり，集中して清掃に取り組む児童生徒が増えた。
○小中合同で挨拶運動を行うことで，連帯感が生まれ，中学校区内の一体感や挨拶に対する意識の高揚が図れた。
≪課題≫
○全国学力学習状況調査において特に活用問題に大きな課題がある。校区の教職員の共通理解のもと，学習したことが常に自分たちの生活とどうつながっているのか，意識した授業展開をする。
○様々な要因により，欠席日数が３０日を越える児童・生徒の割合や特別な支援を必要とする児童生徒の割合が高い。

（２）授業

○物事を深く考え，理解するために，比較したり，分類したり，関連付け，なぜ，そのような結論になったかを考えさせる授業を行う。
○校区の教職員の共通理解のもと，学習したことが常に，自分たちの生活とどうつながっているのか，意識した授業展開をする
○子ども同士がしっかりつながり，児童生徒が主体的に学ぶ学習環境づくりを行うとともに，子どもの実践を評価し続ける。

Ⅳ　自校

１　学校経営方針

（１）学校教育目標

自ら考え学び，貢献する子どもの育成

（２）自校の使命（ミッション）

○自己肯定感をもち，自分から進んで学ぼうとする子どもを育成する。
○地域社会のために役に立ちたいという意欲をもった子どもを育成する。

（３）自校の将来像（ビジョン）

○学ぶ意欲を育て，子どもの学力を伸ばす学校
○体験を重視し，子どもの感性を育てる学校
○地域に対する愛着と誇りをもち，貢献する子どもを育てる学校

２　研究主題及び主な研究内容

「科学的に思考し，表現できる子どもの育成
～実感を伴った学びと，かく活動を通して～」
実感を伴った学びの場を設定し，理科における問題解決場面において言語活動の充実を図って，かく活動に重点を置いたりすることで，科学的なものの見方を育てる。

３　現状（成果及び課題）

（１）児童生徒

○基礎的・基本的な知識・理解は概ね定着しているが，様々な場面への活用は不十分である。
○学ぼうとする意欲は出てきたが，質問したり行動化したりするまでには至っていない。
○あこがれの先輩の行動から学び，友達や下級生に対するやさしさが育ってきた。
○地域の清掃活動やボランティア活動に参加する児童が増えてきた。

（２）授業

○算数科では，児童に課題を提示し，「めあて」を考えさせることがほぼできた。
○「めあて」を意識し，本時の学習をふり返ることが定着してきた。
○ペア学習で，反応を返したり質問したりすることは不十分である。
○学びに対して意欲的になってきた。

４　めざす授業の姿

○児童が疑問をもった事柄の中から課題を見つける授業。
○課題解決に向け，自力で調べたり考えたりして根拠をもとにまとめる授業。
○解決方法を全体で話し合い，友達の考えから学んだり自分の考えを伝えたりする授業。

（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

最終更新日　２０１７年(平成２９年)　２月２４日　　２０１６年度(平成２８年度)　済美中学校区　校番　１８　　福山市立　瀬戸小　学校　　No.（　１　）

Ⅴ　目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点目　標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	１０月１日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方策	プロセス評価	達成評価	2月末 □指標にかかる取組状況 ○短期（中期）経営目標の達成状況 ◎改善方策	プロセス評価	達成評価	総合評価
確かな学力	１	基礎学力の定着を図り，思考力・判断力・表現力を育む。	★	継続	基礎・基本の学力の定着を図る。	「めあて」と「まとめ」を整合させる。 「ふり返り」を行う	全国標準学力検査（ＣＤＴ）の全国平均を超える。 単元末テストで達成率８５％以上にする。	□ＣＤＴ検査は１月実施予定。１学期国語・算数の単元末テストを実施。達成率 国語　　85.6% 算数　　86.8･%･ 「めあて」と「まとめ」を整合させる（70%） 「めあて」と結び付けてのふり返りをさせた。（６０%） ◎ふり返りのモデルや良い例を具体的に示し，「めあて」を意識したふり返りを継続して行う。 運動会や学習発表会での指導にも「めあて」「ふりかえり」を行う。	３	３	□１月にＣＤＴ学力検査を実施。 ○達成率 国語･･･全学年 83%1 年 87%・2年 83%・3年 73%・4年 78%・5年 ７3%・6年 84%, 算数･･･全学年 82%1 年 87%・2年 81%・3年 82%・4年 83%・5年 75%・6年 81% 目標を達成したのは国語 1･2･4･6 年生，算数全学年，学校全体の平均も全国平均を超えている。 ◎各学年，結果分析を行い重点課題問題に対して類似問題を作成・実施し，習得を図る。個別指導も実施し，繰り返し取組ませる。 □国語・算数の単元末テストを実施。 ○達成率 国語･･･全学年 84.6% １年 83.2%・2年 85.0% 3年 81.4%・4年 85.1% 5年 88.7%・6年 84.1% 算数･･･全学年 85.6% １年 92.8%・2年 87.0% 3年 89.2%・4年 78.4% 5年 82.2%・6年 84.4% 「めあて」と「まとめ」を整合させる（77.1%）「め	４	３	４

（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

											あて」と結び付けてのふり返りをさせた。（70.0%） ◎各学年授業改善チェックリストをもとに，国語科では条件を指定して文章を書かせたりキーワードをもとに読み取りをさせたりして「書くこと・読むこと」に取り組んだ。算数科では，答えの求め方を根拠をもとに，自分の考えを図・表・言葉で表現させて「考え方」の力をつける取組みを続けた。			
				新規	思考力・判断力・表現力を育む。	予想→観察・実験→結果→考察の授業サイクルを確立させる 新聞コンクールや「生きる」美術展出品	根拠をあげて述べたり書いたりすることができる児童８５%以上 出品できたか。	□達成率 92.2% （5・6年生児童）授業サイクルを定着させ根拠をあげて表現させてきた。 ◎今後はグループ活動を中心に学び合いの中で育んでいく。 □新聞コンクール出品 85%,「生きる」美術展出品 100%	３	３	□達成率 86.2% ○予想→観察・実験→結果→考察の授業サイクルはほぼ確立できた。 ◎根拠を挙げて表現させるよう発問やワークシートの工夫に取り組めた。 □新聞コンクール出品 85%,「生きる」美術展出品 100%	４	３	４
豊かな心		豊かな心の育成を図る積極的な生徒指導を推進する。		新規	児童の自己肯定感を高める。	ふり返り作文月１回 「にっこり！たまて箱」（給食放送でうれしい行動を紹介）	児童の自己肯定感（＋１０%）	□「自分には良いところがある」と感じている児童 84%（5月） ◎自己肯定感の低い児童に対して，意図的に場面を捉え，でいろいろな人から肯定的評価をしていく。ＰＴＡや地域からの声も伝える。	４	４	□「自分には良いところがある」と感じている児童 90.3%（12 月） ○１学期より児童の自己肯定感は高まっている。 ◎給食時間に，児童の優しさや良い行いをした事を「にっこり玉手箱」で放送したり，縦割り掃除で異学年や多くの教職員と関わる機会を作ったりして，意図的に多方面から肯定的評価をしていく。	４	４	４

（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

				継続	小中連携を図りながら，児童会が主体的にリードする。	「あいさつ」「無言そうじ」ができる児童を増やす。	達成率90%	□達成率83.0% できていない児童に徹底させていく必要がある。 ◎縦割り班掃除に切りかえ，児童の主体性を育む。	4	3	□達成率94.0%（あいさつ89.0%，無言そうじ98.0%） ○児童会が中心に行う挨拶運動や縦割り掃除を行った事で「あいさつ」「無言そうじ」ができる児童が増えた。 ◎挨拶を自分から積極的にできるように児童会を中心に様々な取り組みを行っていく。	4	4	4
力量ある教職員		授業力と教育の専門性を高める。	★	新規	「関わり」「つながり」を尊重できる授業を構想する。	「生活科」「総合的な学習の時間」を新たな単元指導案に基づいて行う。	「ふるさと学習」を展開できたか。 他学年に発信できたか。	□達成率83.0% 他学年に53.5%発信できた。 ◎今後も単元指導案に基づいて行う。	3	3	□達成率95.8% 他学年に53.5%発信できた。 ○単元指導案に基づいて計画的に行うことができた。 ◎次年度に向け「ふるさと学習」年間指導計画の見直しを行う。	4	3	4
信頼される学校		開かれた学校をつくる。		見直し	保護者や地域とのつながりを深め，信頼される学校をつくる。	学校だよりやホームページで児童・生徒の頑張りを伝える。	保護者の学校満足度（８５%以上） 地域に貢献できたか。	□学校満足度保護者アンケート95.0% 地域に貢献できた53.5%（児童自己評価） ◎児童の地域への関わりを積極的に発信する。	3	3	□学校満足度保護者アンケート94.0% 地域に貢献できた60.8%（児童自己評価） ○学校だより（月１回）やホームページ（月２回）校長便り・学年便り等で児童・生徒の頑張りを伝えることができた。 ◎便り等で学校の取組や児童の様子等を時期を逃さず発進する事で保護者や地域等の繋がりを深めていく。	4	4	4

（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

［総合評価］

評価	基　　準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった